

地域再生計画の新旧対照表

新	旧
地域再生計画	地域再生計画
<p>1～2 【略】</p> <p>3 地域再生計画の区域</p> <p style="padding-left: 40px;">延岡市の<u>区域の一部</u>（延岡区域）</p> <p>4 地域再生計画の目標</p> <p style="padding-left: 40px;">【略】</p> <p>（2） 産業拠点づくり</p> <p>本市では、高速道路の整備に伴い、前述したように平成6年に指定された「宮崎県北地方拠点都市地域基本計画」の中で、大規模産業複合団地「クリアパーク延岡」の建設を進めることとしている。計画では工業団地、流通団地、学術・研究ゾーンなどの4つのゾーンに分け、企業の誘致や流通部門の整備を図ることとしているが、このうち、工業団地ゾーンにおいては、現在、第1工区（開発面積約5.67ha）において地元企業1社が操業、2社が建設を進めている状況であり、残りの用地についても分譲を行っている。今後は第2工区の整備を行うことともに、企業立地に向けた取組を積極的に進めることとしているが、高速道路の整備に伴い「クリアパーク延岡」の立地条件は確実に向上することが見込まれることから、産業構造の変化や企業ニーズに対応した優遇措置の充実も図り、企業誘致の新たな展開及び地場産業の育成を推進していく。</p> <p>また、農林業については、農業粗生産額も平成7年の約52億円に比べ平成14年には約39億円と減少しており、今後の振興を図っていくためには、長期的課題である経営体質の強化や担い手対策に取り組むとともに、「空飛ぶ新玉ねぎ」に代表されるようなブランド化を促進し、その販路拡大や、販売拠点施設の整備など販売体制づくりを進めていく。また、<u>森林整備計画に位置づけられた資源の循環利用林としての機能が発揮されるとともに環境への負荷にも配慮しながら広域農道や農免農道、林道など生産基盤の整備を総合的に推進していく。</u></p> <p style="padding-left: 40px;">【略】</p> <p>（目標3）農畜産物輸送の合理化  <span style="padding-left: 80px;">（延岡市北部地区から南部地区までの移動時間短縮：10分）</span>  <span style="padding-left: 80px;">（市場への時間短縮 10%）</span></p>	<p>1～2 【略】</p> <p>3 地域再生計画の区域</p> <p style="padding-left: 40px;">延岡市の<u>全域</u></p> <p>4 地域再生計画の目標</p> <p style="padding-left: 40px;">【略】</p> <p>（2） 産業拠点づくり</p> <p>本市では、高速道路の整備に伴い、前述したように平成6年に指定された「宮崎県北地方拠点都市地域基本計画」の中で、大規模産業複合団地「クリアパーク延岡」の建設を進めることとしている。計画では工業団地、流通団地、学術・研究ゾーンなどの4つのゾーンに分け、企業の誘致や流通部門の整備を図ることとしているが、このうち、工業団地ゾーンにおいては、現在、第1工区（開発面積約5.67ha）において地元企業1社が操業、2社が建設を進めている状況であり、残りの用地についても分譲を行っている。今後は第2工区の整備を行うことともに、企業立地に向けた取組を積極的に進めることとしているが、高速道路の整備に伴い「クリアパーク延岡」の立地条件は確実に向上することが見込まれることから、産業構造の変化や企業ニーズに対応した優遇措置の充実も図り、企業誘致の新たな展開及び地場産業の育成を推進していく。</p> <p>また、農業については、農業粗生産額も平成7年の約52億円に比べ平成14年には約39億円と減少しており、今後の振興を図っていくためには、長期的課題である経営体質の強化や担い手対策に取り組むとともに、「空飛ぶ新玉ねぎ」に代表されるようなブランド化を促進し、その販路拡大や、販売拠点施設の整備など販売体制づくりを進めていく。また、環境への負荷にも配慮しながら広域農道や農免農道、林道など生産基盤の整備を総合的に推進していく。</p> <p style="padding-left: 40px;">【略】</p> <p>（目標3）農畜産物輸送の合理化  <span style="padding-left: 80px;">（延岡市北部地区から南部地区までの移動時間短縮：10分）</span></p>

5 目標を達成するために行う事業

(5-1) 全体の概要

人口 10 万以上の都市で、高速道路のインターチェンジまで 1 時間以上かかる都市は本市を含め全国でも数箇所しかなく、これまで本市発展の大きな妨げとなってきた。しかし現在、その姿が目に見えるほど順調に整備が進んできている。また、高速道路の整備と併せて、四年制大学の誘致や大規模産業複合団地「クレアパーク延岡」の建設等、地域活性化のための取組を進めてきたが、今後は地方分権の推進や少子高齢化の更なる進展が見込まれることから、これまで以上に活力と魅力にあふれた地域づくりを進めていくことが必要不可欠となっている。

このため、宮崎・熊本・大分の中間地点という地理的優位性を最大限生かしながら「人・物・情報が活発に行き来する交流拠点都市」の構築をめざし、以下の事業を総合的かつ一体的に実施する。

まず、道整備交付金を活用する事業として、広域農道沿海北部地区は昭和 53 年に策定された広域営農団地整備計画に位置付けられた基幹的農道で（昭和 58 年事業計画確定）、全延長 30 km を整備するものである。このうち延岡市桜ヶ丘町から祝子町間の延長 1,625 m の整備と、この広域農道に接続する延岡市の市道として昭和 58 年に市道認定された桜ヶ丘 17 号線と、松山宇和田線を一体的に整備する。これにより、延岡市北部地区から南部地区までの移動時間を短縮し農畜産物の輸送合理化を図るとともに、一大住宅団地である桜ヶ丘町や稲葉崎町から延岡市西部にある運動公園やインターへのアクセス時間の短縮、さらに、延岡市西部にある住宅地から北部に位置する県立延岡商業高校や私立延岡学園高校へ通う高校生の安全確保と時間短縮を図る。また、森林整備計画に記載された林道「津々良小野線」の開設、「下三輪線」・「鹿狩瀬行膝線」の舗装を実施し、安全な通行を確保するだけでなく、市の主要観光施設及び、アースデイ等イベントのアクセス道路としての機能を果たし、さらに、災害時等の河川への汚濁流入防止及び、林産物の市場への搬出時間の短縮を図る。

また、その他の事業として、大学を活かしたまちづくり・広域的な地域づくりの推進・工業の振興・農林業の振興・関連する市道網の整備を同時に展開していくことで「人・物・情報が活発に行き来する交流拠点都市」の構築をさらに強めていく。

(5-2) 法第五章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金を活用する事業

〔施設の種類（事業区域）、実施主体〕

- ・市道（延岡市）、延岡市
- ・広域農道（延岡市）、宮崎県
- ・林道（延岡市）、延岡市

〔事業期間〕

- ・市道（平成 17～19 年度）、広域農道（平成 17～21 年度）
- ・林道（平成 20～21 年度）

5 目標を達成するために行う事業

(5-1) 全体の概要

人口 10 万以上の都市で、高速道路のインターチェンジまで 1 時間以上かかる都市は本市を含め全国でも数箇所しかなく、これまで本市発展の大きな妨げとなってきた。しかし現在、その姿が目に見えるほど順調に整備が進んできている。また、高速道路の整備と併せて、四年制大学の誘致や大規模産業複合団地「クレアパーク延岡」の建設等、地域活性化のための取組を進めてきたが、今後は地方分権の推進や少子高齢化の更なる進展が見込まれることから、これまで以上に活力と魅力にあふれた地域づくりを進めていくことが必要不可欠となっている。

このため、宮崎・熊本・大分の中間地点という地理的優位性を最大限生かしながら「人・物・情報が活発に行き来する交流拠点都市」の構築をめざし、以下の事業を総合的かつ一体的に実施する。

まず、道整備交付金を活用する事業として、広域農道沿海北部地区は昭和 53 年に策定された広域営農団地整備計画に位置付けられた基幹的農道で（昭和 58 年事業計画確定）、全延長 30 km を整備するものである。このうち延岡市桜ヶ丘町から祝子町間の延長 1,625 m の整備と、この広域農道に接続する延岡市の市道として昭和 58 年に市道認定された桜ヶ丘 17 号線と、松山宇和田線を一体的に整備する。これにより、延岡市北部地区から南部地区までの移動時間を短縮し農畜産物の輸送合理化を図るとともに、一大住宅団地である桜ヶ丘町や稲葉崎町から延岡市西部にある運動公園やインターへのアクセス時間の短縮、さらに、延岡市西部にある住宅地から北部に位置する県立延岡商業高校や私立延岡学園高校へ通う高校生の安全確保と時間短縮を図る。

また、その他の事業として、大学を活かしたまちづくり・広域的な地域づくりの推進・工業の振興・農林業の振興・関連する市道網の整備を同時に展開していくことで「人・物・情報が活発に行き来する交流拠点都市」の構築をさらに強めていく。

(5-2) 法第四章の特別の措置を適用して行う事業

道整備交付金を活用する事業

〔施設の種類（事業区域）、実施主体〕

- ・市道（延岡市）、延岡市
- ・広域農道（延岡市）、宮崎県

〔事業期間〕

- ・市道（平成 17～19 年度）、広域農道（平成 17～21 年度）

〔整備量及び事業費〕

・市道 540m、広域農道 1,625m、林道 3,829m

・総事業費

市道	120,000千円	(うち交付金	60,000千円)
広域農道	3,517,500千円	(うち交付金	1,758,750千円)
林道	180,000千円	(うち交付金	76,666千円)
合計	<u>3,817,500千円</u>	(うち交付金	<u>1,895,416千円</u> )

(5-3) その他の事業

【略】

6~8 【略】

〔整備量及び事業費〕

・市道 540m、広域農道 1,625m

・総事業費

市道	120,000千円	(うち交付金	60,000千円)
広域農道	3,517,500千円	(うち交付金	1,758,750千円)

(5-3) その他の事業

【略】

6~8 【略】